

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

415

教育調査研究事業（教育研究所）

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	教育総務費		
	目	教育研究所費		
	大事業	教育研究所事業		
	中事業	教育調査研究事業（教育研究所）		

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel
事業実施の根拠法令	教育研究所条例、教育研究所規則		関連課	教育研究所 須佐 宏 435-1192

1 事業内容

事業目的	（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）		全体事業概要			
	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し、子どもの郷土に対する誇りや愛着を育成する。 ②教育論文・実践を募集し、教育水準の高揚を図る。		①小学校3年生の児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し、和歌山市について学びながら、子供の郷土に対する誇りや愛着の心を育成する。 ②教育論文・実践を募集し、個人並びに学校・グループの教育研究を奨励し、和歌山市の教育水準の高揚を図る。			
事業内容		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
		①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し地域学習に生かす。 ②教育論文・実践録を公募、研究奨励・発信を行う。	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し地域学習に生かす。 ②教育論文・実践録を公募、研究奨励・発信を行う。	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し地域学習に生かす。 ②教育論文・実践録を公募、研究奨励・発信を行う。	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し地域学習に生かす。 ②教育論文・実践録を公募、研究奨励・発信を行う。	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し地域学習に生かす。 ②教育論文・実践録を公募、研究奨励・発信を行う。

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	1,631	1,631	1,646	1,646	1,674	1,620	1,651	0	1,674	0
伸び率（%）	0.9%	2%	0.9%	0.9%	1.7%	△1.6%	△1.4%	△100%	1.4%	0%
人件費	正規職員	1,450	1,450	1,434	1,434	1,397	6,439	6,439	0	6,439
	正規職員以外	0	0	0	0	0	1,236	1,288	0	1,288
	小計	1,450	1,450	1,434	1,434	1,397	7,675	7,727	0	7,727
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源（税等）	1,631	1,631	1,646	1,646	1,674	1,620	1,651	0	1,674	0
所要人数（人）	正規職員	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.83	0.83	0.00	0.83
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.39	0.40	0.00	0.40
主な予算内訳	印刷製本費1,674千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
教育論文応募点数		点	目標値	70	70	70	70	70
			実績値	27	0	27		
			達成度(%)	38.6%	0%	38.6%	%	%
副読本配付率		%	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	100	100	100		
			達成度(%)	100%	100%	100%	%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	コロナ禍においても各学校の授業研究は積極的に行われている。しかし、研究論文としてまとめることは、現状では負担が大きく、教育論文の応募数が少ない結果となった。
見直し・改善内容	社会科副読本については、子供の学習がより一層広がるよう和歌山市の現状に合わせた改訂を施して改善を図るとともに、小学3年児童への配付を継続する。 自らの実践を振り返り検証し教育論文を書くことは、授業力の向上につながるため、令和4年度からは教員研修の中に課題として取り入れていく。